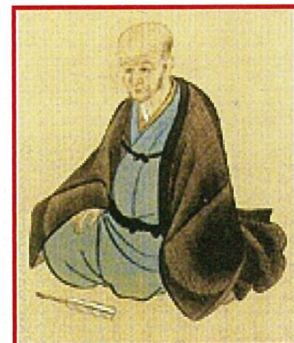


「平成 奥の細道」を読んで 第 61 回 (35 年卒) 石谷義治  
 静岡時代の職場の同僚 S 君は、退職後の夢でありロマンであった”奥の細道歩き旅“を  
 目指していた。退職と同時にまず手始めに、四国八十八札所巡りを 2 回実践し“歩き旅”へ

MAP 上の距離は地図上で  
 測定計測したもの

実測距離は歩数計で計  
 測したもの

回	区間		MAP 上の 距離 (km)	実測距離 (km)	所要 日数
	旅程	通過県			
1	東京深川採茶庵～下今本	東京・埼玉・栃木	138.7	154.0	5
2	下今本～広谷池	栃木	139.7	148.8	5
3	広谷池～福島	栃木・福島	173.3	183.6	7
4	福島～松島	福島・宮城	141.0	156.7	6
5	松島～岩出山	宮城・岩手	183.7	207.6	8
6	岩出山～山寺	宮城・山形	111.1	117.9	5
7	山寺～鶴岡	山形	154.8	168.6	8
8	鶴岡～あつみ温泉	山形・秋田	99.8	108.8	5
9	あつみ温泉～新潟	山形・新潟	120.2	139.2	6
10	新潟～能生	新潟	182.9	195.1	7
11	能生～高岡	新潟・富山	119.1	131.8	5
12	高岡～加賀温泉	富山・石川	96.0	112.2	5
13	加賀温泉～敦賀	石川・福井	169.5	184.8	7
14	敦賀～大垣水門川	福井・滋賀・岐阜	81.6	96.6	4
奥の細道 総距離			1,911.4	2,105.7	83



の体力増強と準備にかかった。これと併行して図書館に出掛け、自ら資料  
 (芭蕉の旅日記他) を収集分析し、又インターネットを駆使、道路事情を  
 調査、コースを地図に落とし込みシュミレーションを繰り返し、320 余年  
 前芭蕉と弟子河合曾良が歩いた道筋を忠実に辿り、1 都 14 県を 14 回に分  
 け、延べ 83 日間で歩き通した。江戸前期の芭蕉と曾良は、各地で句会を  
 開きながら約 150 日の日数をかけ、約 600 里、歩き以外では馬・駕籠・舟  
 を利用していた。また当時は江戸開府 85 年後といえども、江戸を出れば辺境の地、道路も  
 身支度も粗末なものであり、正に艱難辛苦の旅であったと思われる。それに比し現代は整  
 備されてるとは言え、大型車両も多量に行き交い違う意味での危険が一杯であった様だ。  
 彼は資料収集の段階で“奥の細道”には歩く為の資料が意外と少ない事が判り、この“歩  
 き旅”を紀行文として冊子にして出版した。



全行程図